



升原執行委員長

勝ち取ったこと、仲間との意見交換

「ヒントはいくらでもある」

1月26日(木)、広島ロードビルとオンライン併用で2023春の組織集会を開催し、会場から13名、オンラインで51名、計64名が参加しました。従来は組織拡大に向けた内容で開催しましたが、今回は現場で起こる「困りごと」に対し、過去や現在の取り組み・改善内容を各単組で共有し、組合の存在意義を私たち自身が改めて実感し伝え広めることを目的に企画しました。

そこに組合があれば…

～組合があったからこそ解決・改善できたことは無数にある～



吉川執行委員長

冒頭、木下組織部長は、「ニュースで看護師や保育士の斉退職などの話を聞くがそこに組合があれば…」と思わずにはいられない、と述べました。その言葉を継ぐように、職場に組合ができたから・あったから解決・改善できた事例を8つの単組が報告しました。

愚痴から成果に

広島介護福祉労組清流支部の吉川執行委員長は、職員の7割が非正規。最賃ギリギリの賃金で、職員同士で愚痴を言っているだけでは変わらない、と組合結成。初めての団体交渉で賃金UPや、業務改善の回答を引き

交渉方法を工夫

出したことを報告しました。



平野議長

広島県福祉事業団の升原執行委員長は、本部交渉だけではなく、各分会交渉で週休2日制に伴う人員確保を実現したこと、休憩室の冷蔵庫の設置や制服の変更など小さな困り事は労働安全衛生委員会で改善したことを報告。「過去の実績ではあるが、昔話があるから、今がある」という経験からくる発言の重みを感じました。

6年ぶりの正規獲得

広島市職労の学校給食調理員協議会の平野議長の報告は、コロナ禍、夏休み中に学校給食を提供することにになり、調理室の暑さ対策を要

閉会にあたり、平野執行委員長は、今の取り組みが良い結果につながる、勝ち取ってきたことの振り返りや、仲間との意見交換からヒントを得た取り組みが大切になる、そして何より数が大きな力と支えとなる、頑張っ仲間を増やしていきたい、と締めくくりました。



第66回はたらく女性の広島県集会

2月5日(日)午後、第66回はたらく女性の広島県集会が、「幸せに生きたい、働きたい」をテーマにロードビルでオンライン併用で開催され、125名が参加しました。

実行委員長のあいさつに続き、8団体から職場交流動画や発言がありました。記念講演は「ジェンダー平等の実現を新しい労働世界で」と題して、早稲田大学名誉教授の浅倉むつ子さんがお話しされました。

また、エッセンシャル・ワーカーは女性が大半を占めること、ケアレスマン(育児や家事に責任を持たない正規男性)を社会的に不可欠な労働として尊重する世界のこと。コロナ禍で、ジェンダー平等やエッセンシャル・ワーカーの重要性が浮かび上がりました。



第31回自治体非正規・公共関係労働者全国集会

2月4日(土)完全オンラインで第31回自治体非正規・公共関係労働者全国交流集会が開催され、全国から2000名を超え、広島から13名が参加しました。

公共を取りもどす

開会では、小川議長が非正規職員の現状を振り返り、「任期満了」を理由とした雇止め、処遇の阻害、改善や均等待遇を求め、「公共を取りもどす」を訴えました。

広島から組織拡大を発信

発言交流では、「組織」「賃金」「憲法」の3テーマに分け、広島からは平野執行委員長が「組合がなかったら、賃金格差は政策を」と訴えました。

今年山口で開催される全国大会に向け、更なる運動へ意欲が高まる集会成为りました。

仲間を増やそう、公共を取りもどそう



「組合がなかったら、賃金格差は政策を」と訴えました。そして、女性差別撤廃条約の選択議定書を批准し、「個人通報」が可能になることが大切だと主張されました。

最後に、報告と行動提起。全員アピール行動で閉会となりました。

2023 春闘

改めて、「消費税」とは

全3回・最終回 消費税の今後のあるべき姿



1月13日 中区本通り青山前で80人でアピール

広島市は、中央図書館等の再整備・移転方針を撤回せよ

中央図書館等は広島市の平和政策・文化政策の根幹をなす

広島自治労連が加盟する「緑ゆたかな静寂の地」で広島市の文化を創造・継承したい市民の会（以下、緑ゆたかな）は、昨年5月の結成以来、広島市が中央図書館等各施設の使命・機能面から中央図書館等再整備方針を策定するのではなく、エールエールA館移転ありきで進めていることに異を唱えながら、議会傍聴や学習会、署名行動を継続してきました。

「知の拠点」が商業ビルに移転されて良いのか

この間、明らかに

たのは、広島市は、中央図書館や映像文化ライブラリーが「国際平和文化都市」の知の拠点、都市構想の象徴であり、各区図書館とは異なる使命を果たしていることを理解しておらず、議会における移転反対への答弁は「広島駅周辺を整備すること」で集客が伸び、エールエールA館内の中央図書館等に人が集まり、平和を発信することができるとの一点張り、何の説得力も持ちません。

「法人税減税で企業は逃げるのか」について

「減税であることの重要性」 今までは政府は「経済対策」「困窮対策」として様々な「給付制度」で対応してきましたが、給付では制度設計に時間がかかり、現場は慣れない作業による業務の負担で支給の遅れやミスを生む結果とまりました。減税であれば業務負担が少なくなり、スピードも速くミスも減ります。減税が実現すれば、消費額が年間200万ならばその効果は5%で10万、0%なら20万の効果となり、大きな景気への追い風となります。



スピーチする映画屋の友川千寿美さん

「法人税減税で企業は逃げるのか」について

消費税減税を打ち出すと、「社会保障の財源は？」となりますが、それについては、この間、税率低減を続けてきた大企業、富裕層に応分の負担を求めべきです。

「企業が海外に逃げる」という批判がありますが、法人税が減税されても国内での設備投資は増えておらず、対外投資は激増です。企業アンケートからも、「利益を海外に求めていく」「回答が多くを占め、株主配当を膨らませる目的以外に考えられません。政府も、目先の税収が手

に入る「増税」に突き進み国民を苦しめようとしています。我々はこのような政府の動きに「NO」を突き付ける必要があります。「増税反対」「大幅減税」の大きな流れを作る運動を進めることを、労働組合を中心とした市民の協働の輪を広げて実現していくことを大切に訴え、連載を終了いたします。春闘ではさまざまな行動が展開されます。どれかひとつでも参加し、「賃上げ」「消費税減税」「人員増」等を公務・民間がともに声をあげ、安心して働き続けられる社会に変えていきましょう。



退職されるみなさまへ

退職おめでとうございます。いろいろお世話になりました。組合加入者には、自治労連共済から退職金別祝い金をお渡しいたしますのでご連絡願います。退職後のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

2023国際女性デーひろしま

- ◆3月5日(日)13時~15時30分
◆広島市中区袋町ひとまちプラザ6F(会場参加のみ)
◆講演「フリーになって見えてきた 広島」
◆講師 宮崎園子さん(元朝日新聞記者)
◆組合員について参加費は組合負担

2023春闘勝利決起集会

- 大幅賃上げ・底上げで誰もが希望持てる公正な社会をつくろう
●3月9日(木)18時30分~19時30分(アリスガーデン解散)
●広島県庁前広場で集会~アリスガーデンへデモ行進
●公務、医療、福祉、教育、民間、女性などからアピール
★1人でも多くの参加で春闘勝利しよう★

「助け合い制度」だから「より良い仕組みに」

2月1日、自治労連共済学習会がオンラインで開催され、午前と夜間の部合わせて35人が参加しました。冒頭、平松執行委員長が、自治労連共済は19世紀イギリスのパブで労働者同士が助け合うためにお金を出し合ったという助け合いの精神を起源にし、「安い掛金・大きな保障」をモットーに運営し、組合加入のきつかけになるので、一緒に学びました。今年、5年に1度の共済制度改定の時期であり、各単組共済担当者や委員長、書記長等を対象に開催し、共済本部の山田事務長が講師として説明しました。改定ポイント(1)組合・組合員にとって可能な限り分りやすい制度へ(2)自治労連共済の特徴点・メリットをより活かした制度へ(3)民間保険の動向を踏まえた改定、です。2023年4月1日から適用となる。加入を希望される方にはリーフレットをお送りいたします。広島自治労連又は単組共済担当者へお気軽に問合せ下さい。組織共済の祝い金などの効用は3年とありますが、今年、該当している方は早めに3月中に申請してください。

